

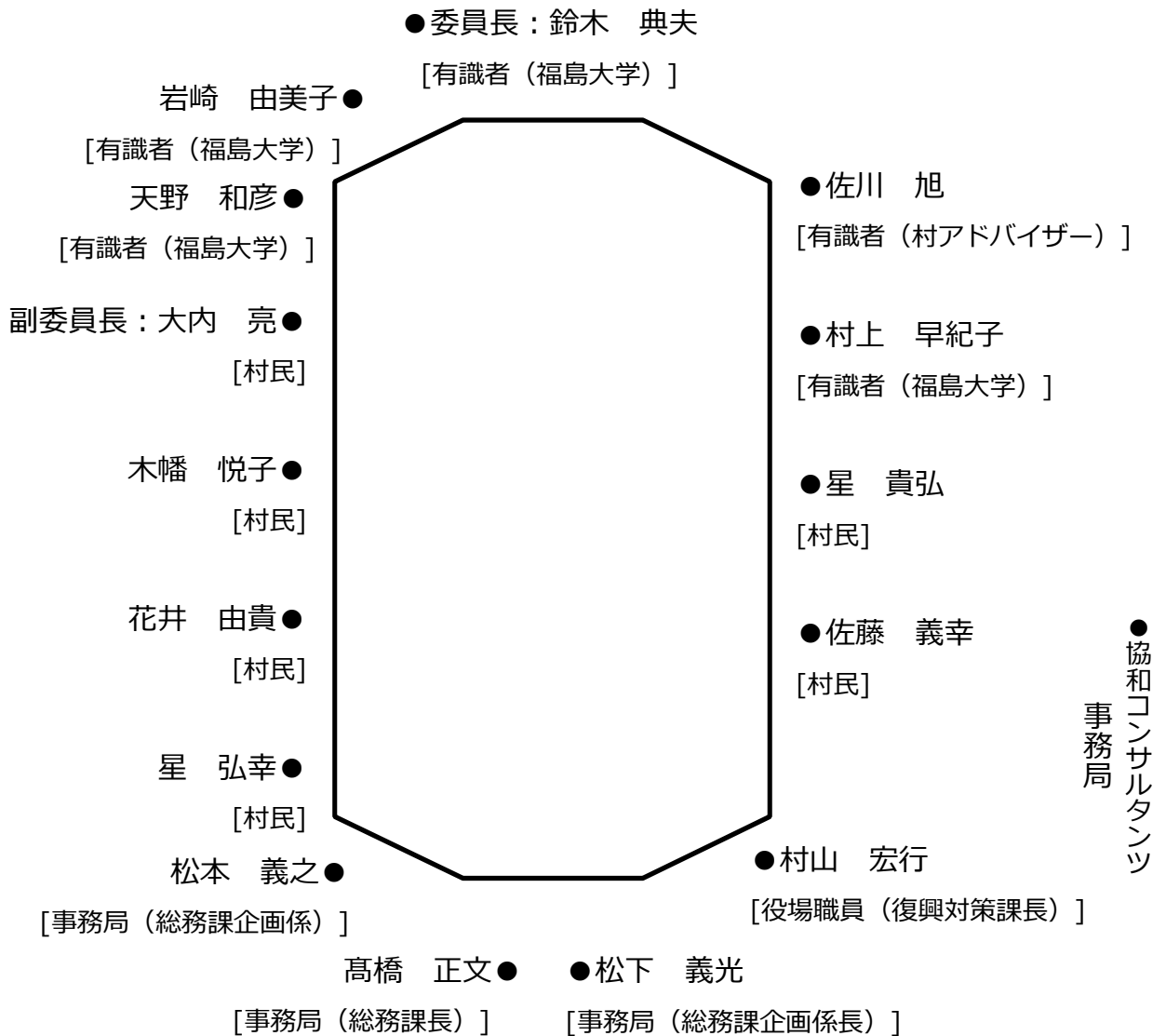
# 第6次飯館村総合振興計画策定委員会 第4回議事録

日時：2020（令和2）年3月13日（金）

18：30～20：30

場所：飯館村役場2階 第1会議室

## <出席者・席次>



<b>1. 開会</b>	
<b>2. 委員長あいさつ</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 専門部会では様々な項目は出てきていると思う。この間、中間報告会があり、様々な意見がでた。</li> <li>➤ 部会と部会を超えたところで、5年間で何をするのか、何をを目指すのかが分かるように意識しながら、全体像の意見をいただきたい。</li> </ul>
<b>3. 計画策定の進捗報告等</b>	
<b>1) 防災部会視察研修開催報告</b> <b>2) 飯館村第6次総合振興計画中間報告会開催報告</b> <b>3) 計画全体の基本方針について</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・村づくりの基本理念（案）</li> <li>・施策の大綱（案）</li> </ul> <b>4) 各専門部会の協議状況の報告</b> <b>5) 計画書（本編）の完成イメージについて</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 事務局より配布資料を基に視察研修、中間報告会、計画全体の基本方針、各専門部会の協議状況、計画書の完成イメージについて等、進捗報告を行った。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ （防災部会視察研修について）口内地域は住民の有志で共助に取り組んでいるところ。NPOでなくても協議会方式などで実施しているところもあるが、当時は法人格が必要だった。輸送サービスだけでは採算がとれないので、特産品の開発や子育て支援をしたりしてNPOとして取り組んでいる。</li> <li>➤ 互助輸送は、地域でミクロながら取り組んでおり、飯館村でも参考になると思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 中間報告会への意見について、(資料2ページから資料4ページまでの) 計画全体に関するものは事務局の回答案を示している。(資料5ページから8ページまでの) 各分野への具体的な提案等については各専門部会で今後検討していただくと考えている。</li> <li>➤ 中間報告会でも意見が挙げられたキャッチフレーズ、基本理念や施策の大綱、各専門部会の重点事業案については、「4. 議事」の中で委員の皆さまからご意見をいただきたい。</li> <li>➤</li> </ul>

4. 議事	
1) 村づくりの基本理念（案）について	
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 中間報告会の意見等の回答については、事務局の回答案で良いと思う。キャッチフレーズも委員で話し合って決めたものなので、変えない方向で進めたい。ただ、キャッチフレーズの説明文、基本理念の文章については、想いが上手く伝わらないものになっていると感じるので、改めて考えたいと思うが、どうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 基本理念について、「田舎の毎日の生活を楽しむためには～」とあるが、「田舎」という言葉が気になる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 昔ほど、田舎とか都会とか区別しなくてもいいのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 中間報告会では、村民からかなり辛辣な意見が出た。今回の説明文では「ものはそこそこにし」の部分が誤解を招くと思う。なくてもいいのではないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 一番大事なフレーズは何かということだ。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 共助をクローズアップした方がよい。復興に関わる活動の方に聞くと、共助を特に意識している。震災で地域のコミュニティはなくなった中で、地域の共助の仕組みをどう再生していくのかと考えておられる。かつての共助の仕組みをどう再生していくのかを、丁寧に説明した方がいい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 分かち合うなどがキーフレーズになる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 着目したいところにマークするなどの表現方法があってもいいのではないか。</li> <li>➤ 共助は「かつて飯舘村でできていたじゃないか」と感じてもらうことが重要。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ わかりやすさを意識し、読み手に分かってもらうことが重要。「引き算」は読み手にとっては後退するというイメージになってしまうのかもしれないけど、物事の考え方を変えていこうということなので、伝わりやすい表現にしたい。</li> <li>➤ 共助をどんな表現で伝えたらよいだろうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 新しい価値観を作っていくという意見は、その通りだと思う。どう伝えるか。手紙文やメッセージのような書き方はどうか。</li> <li>➤ アンダーラインも加えると、読んでいただけるとはいえないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ そういう方向性で新たな説明を考えて欲しい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 震災後に村を離れることで、自然・野菜などふるさとがよか</li> </ul>

	<p>ったと感じた。ただ、離れていて便利な部分も経験しており、すぐに戻るというのは難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 今は遠く離れても飯館のことを思う人がいる。住んでいる人だけの村ではなくて、離れている人にも協力していこうと思える。</li> <li>➤ あたりまえの幸せは知ったから、こういう風にしていくというメッセージだけでいいのではないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 後段の部分は、開かれているという意味が大事。飯館に関わる人に開かれているということだ。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 一方的な対象ではなく、多視点、多くの現状があるということ踏まえた上での方向性ということになると思う。</li> <li>➤ 本日の話し合いを踏まえて事務局で改めて基本理念の文章を整理してほしい。</li> </ul>
<b>2) 各専門部会の方針等について</b>	
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 重点事項が5つあるが、5年間に必ず実施するものと、できればやるものの2つくらいに分けた方がいい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ すべて5つというのは機械的すぎないか。分野によって、強弱はあると思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 5年間で必ず実現させるもの等、優先順位をつけたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 事業を区分するのはありだと思う。5次総の時に重点施策で実現しなかったものは、誰がやるのかという落とし込みが足りなかったもの。どのくらいの予算をつけて、誰がやるまで決めることが重要。重点事業に上げたものは、そこまで深めて欲しい。</li> <li>➤ 基本理念で村の共助を重視するのなら、住民が参加するプログラムを重点事業にすべき。自分たちが参加するんだ、と思える計画でないと駄目だ。</li> <li>➤ 村だけでやることはもちろん網羅するが、橋渡しができれば村民ができるという施策を上げなければならない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 5次総は何年計画か？3年でローリングしたか？</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 10年計画で、5年目で中間評価した。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 計画期間が長いほど評価がたいへんになる。2年くらいでローリングして、なぜできなかったのかの検証とタイムスケジュールを入れ込む必要がある。最後の1年で次回計画を策定するくらいのスケジュールがいい。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 工程表の議論を専門部会で協議している。防災部会では毎年見直した方がいいという意見がでている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 共助がないと行政区も大変なので、キーワードになる。重点事業も共助になるというのは、聞いている方も理解しやすい。今はメリハリがなく、読んでいて納得感がない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 防災部会は、5つではなくて3～4つだった。前回5つに増やしたが、しっかり実現するもの考えた。よく考えると1つ目と3つ目はリンクするとか、進捗の管理は当たり前だね、という気づきもあった。重点的なものを掲げ直そうかという議論になったところだった。</li> <li>➤ 数はいくつでもよく、検討し直していただくのはいいと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ここから本当に部会として何をしたいか、そこを見せてあげないといけない。数にはこだわらなくていい。</li> <li>➤ 基本理念に打ち出していることを具現化しているようなものでなければならない。</li> <li>➤ 大事だけど簡単にできるもの、二から三番手だけどすぐできる、のバランス、実現性というものもある。あえて、実現性の低いものにチャレンジするというものもあるし、実現性が高いものを段階的に行うというやり方もあると思う。</li> <li>➤ 分野の中でストーリーがあると思う。柱になるものから派生したものだとする5つではないかもしれない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 観光分野では、重複しているところがあるので、3つに絞ってもいいと思った。情報発信は特に被っていると思う。一応5つ挙げたが、住民が見て分かりやすくした方がいいと思う。</li> <li>➤ 産業部会だと、観光も情報発信、移住も情報発信となっている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 情報発信するターゲットは違っているとは思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 数にはこだわらなくてよい。事務局から5事業とお願いしたようで申し訳なかったが、検討し直していただくのは構わない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 情報発信のターゲットが違うのは難しい問題。高齢の方々は移動手段によって交流を生み出していき、それぞれのイメージがあるのは当然だ。</li> <li>➤ 部門間で重複があるものは、健康では家庭菜園で体を動かすといった意味もあった。</li> <li>➤ 食は、健康づくりの食、文化継承の食のようなテーマで、合</li> </ul>

	<p>わせたひとつの作品のようにしてはどうか。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 部門間で重複しているのではなく、横断しているということだ。暮らしだから横断するのは当たり前。人間の暮らしだから縦割りできない。</li> <li>➤ 重複するものは、雑誌でいう特集のページだ。</li> <li>➤ 4つのプロジェクトを軸に部会を超えてプロジェクトを組んでいかなければならない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 各部会で話し合っ、いいたてを食べたい・伝えたいプロジェクトを別のページで出すという出し方もいい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 表をつくと分かりやすい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 中間報告会の時の大判の用紙がなくて、表になったが、逆に分かりづらくなってしまった。あの大判の表も一緒に入れられないか。両方で説明できるといい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ フローがあって表にいかないと、伝わらない。</li> <li>➤ グラフィック処理をしていくことが必要。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 計画として考えているイメージがイラストや図として表現されているかというチェックも大事な作業になる。図式化して暮らしのイメージがでてくるとか、その中に細かいものがあると思う。</li> <li>➤ (資料14ページの) 計画書ページイメージはひとつの参考になるが、こういうイメージで合っているかどうかの確認が必要。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 関係図みたいなものがあればいい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ファシリテーショングラフィックみたいなものがあると分かりやすい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ファシリテーショングラフィックで、各部会の議論をプロセスとして見せてあげることも重要。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 計画書の中にも入れるイメージでよいか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 雑誌のように、特集するといい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 横断的にするものを網羅するようなものを表現すればいい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ できれば専門部会でのメイキングみたいなものを載せたい。</li> <li>➤ 別冊でもいいので、事実を伝えるべき。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ いいほん・たまには・てにするについて、司書の配置が必要と感じている。村に図書館はなく、ふれ愛館には本があるのと、学校の図書室しかない。小学校は本を立てたりしている</li> </ul>

	が、中学校はきっちり入っているだけ、取りやすくなっていない。司書をぜひ配置して欲しい。手に取りたいと思うような環境づくりをお願いしたい。
委員	➤ 昔は図書委員がやっていた。
委員	➤ 図書委員をするにも、子どもの数が足りていない。先生も減っているので、司書をお願いしたい。
委員	➤ 地域おこし協力隊の活用なども考えられるかもしれない。
事務局	➤ 教育委員会からも要望があるが、人材がいない。人材がいればすぐに予算をつけたい。
委員	➤ 司書は、本の整理だけでなく、対象に応じて、適切な本を適切な人に届くようにする方。災害が多い年は、災害の本を多くするなどの企画を行う。学芸員の図書館版。
委員	➤ 図書館を充実して地域づくりにつなげたところもある。ネットワークをつくとヒントが出てくると思う。
委員	<p>➤ 一貫校になることも踏まえると、確かに計画書に図を足すといい。5年生の子にとって5年後は中学校3年生なので、それまでの計画になる。</p> <p>➤ 豆ふたたび、八景づくりなど子どもが興味を持って、親に問いかけてということもある。図やフローチャートで伝えられるといい。教育の一環として取り入れることもできると思う。</p>
委員	➤ ネットを使える方にはこういう情報発信もいいと思うが、そういうのが苦手な方や高齢者の方への発信方法も考えるべき。
委員長	<p>➤ 情報発信のツールは、ターゲットをどう考えるかだ。情報発信として一般向けにするものもあるし、村民に向けてというものもあるし、受け取ってもらわなければならないという情報もある。</p> <p>➤ 防災部会では、防災のための伝達手段はアナログかもしれないし、広く言えば、コミュニケーションも情報交換。かなり幅広になる。</p>
委員	➤ 教育部会では、公民館などで漬け物カフェをしてはどうかということだったが、それもひとつの情報発信・交換の場だ。
委員	➤ 重複する部分を部会の人たち同士で一緒に話をする機会があってもよい。堅苦しくない形でいい。
委員長	➤ 特集ページをつくるイメージで、食に関連する人に集まって

	<p>もらってサブ部会をするというのはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 部会全員ではなく食のキーマン・提案者を集めて7～8人で、横串部会を行ってはどうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 新たな発見もできる。先日の産業部会では地域おこし協力隊に来てもらって話をしたが、新たな発見があった。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 横断プロジェクト部会をやってもいい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ その中から新しいものが出てくると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 共助という理念、4の大綱が一番あっているが、1～3はあまり心に入っていない。</li> <li>➤ 1生活の美がつくる健やかな村、2身近な魅力を再発見、価値を高めて、誇り、3子どもも大人もねばり強く助け合う心が～など、伝えるから伝わるものに。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 共助に加えて多様性ということを意識し、言い方を考えていきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 各施策が出てきたが、現状などは調べて、部会で周知して欲しい。ゴミの分類については、南相馬のゴミ焼却場を使えることになっている。今後は南相馬のルールに従う必要がある。どのレベルの分類までするのかといった情報が必要だ。</li> <li>➤ 防災部会の住民票のコンビニ発行は、県内で実施しているのが大規模な市のみ。費用面など、できないハードルがあるのではないか。</li> </ul>
<b>5. その他</b>	
<b>6. 次回の予定</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ スケジュールとしては横断部会が追加になったと思うので、これを調整し、実施してから、日程を決める。今のところ5月中旬か下旬の予定。</li> </ul>
<b>7. 閉会</b>	



## 第4回 飯舘村第6次総合振興計画策定委員会

### 次 第

日時：令和2年3月13日（金）18:30～

場所：飯舘村役場2階 第1会議室

#### 1 開 会

#### 2 委員長あいさつ

#### 3 計画策定の進捗報告等

- 1) 防災部会視察研修開催報告
- 2) 飯舘村第6次総合振興計画中間報告会開催報告
- 3) 計画全体の基本方針について
  - ・村づくりの基本理念（案）
  - ・施策の大綱（案）
- 4) 各専門部会の協議状況の報告
- 5) 計画書（本編）の完成イメージについて

#### 4 議 事

- 1) 村づくりの基本理念（案）について
- 2) 各専門部会の方針等について

#### 5 その他

#### 6 次回の予定

#### 7 閉 会

飯舘村第6次総合振興計画策定委員会 委員一覧

区分	氏名
村民	大内 亮
村民	木幡 悦子
村民	佐藤 義幸
村民	花井 由貴
村民	濱田 幸成
村民	星 貴弘
村民	星 弘幸
村民	山田 豊
役場職員	高橋 祐一
役場職員	村山 宏行
有識者（村アドバイザー）	佐川 旭
有識者（福島大学）	鈴木 典夫
有識者（福島大学）	岩崎 由美子
有識者（福島大学）	天野 和彦
有識者（福島大学）	村上 早紀子

## 防災部会視察研修開催報告

### 1. 概要

1月20日（月）に交通施策関連役場職員（総務課・住民課・健康福祉課）及び社会福祉協議会職員による岩手県北上市での視察研修を、防災・建設・行財政部会長である村上早紀子先生にご案内いただき実施した。

### 2. 研修内容

プログラム	内容
①北上市の交通政策について （北上市都市計画課）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北上市は「あじさい都市」をめざす都市像としており、都市拠点と地域拠点を結ぶ拠点間交通と地域内交通を組み合わせる公共交通ネットワークを構築。</li> <li>・都市拠点内には、どのバス路線も通る結節点を設置。</li> <li>・市内の地域内交通は、乗合タクシー、自家用有償運送、互助輸送。</li> <li>・旧和賀町地区の乗合タクシーは市が運営してタクシー会社に委託。その他の地区の乗合タクシー、黒岩地区の互助による輸送、口内地区の自家用有償運送などは、いずれも地域主体で運行。</li> <li>■口内地区：自家用有償運送について 下記②参照</li> <li>■稲瀬地区：乗合タクシーについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で運行計画を策定し、市内のタクシー事業者に依頼して運行。</li> <li>・地域内では乗合タクシーであるが、同じ車両が市内中心部までの区間では定時定路線の路線バスとして運行するハイブリッド方式。</li> <li>・ほとんどの利用者が、そのまま市内中心部まで利用する直行型で利用。</li> </ul> </li> <li>■黒岩地区：互助による輸送について <ul style="list-style-type: none"> <li>・「黒岩自治振興会」が主体となり、無償の地域住民の互助輸送について実証運行中。</li> <li>・運行用の車両は「トヨタカローラ南岩手（株）」から無償貸与。</li> </ul> </li> </ul> <p>※地域内交通をどんな制度で実施していくのかを決める際は、地域住民としっかり相談して考えることがニーズの把握や利用率向上、制度持続等の観点から非常に大切とのこと。</p>
②口内地区自家用有償運送について （NPO法人くちない）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口内地区は9つの行政区から構成、人口1,450人、550世帯。</li> <li>・平成20年に、口内町自治協議会が中心になって導入に向けた検討開始。自治協議会は運行主体になれなかったため、町内有志でNPO設立。</li> <li>・市の運営協議会で導入に向けた協議を重ねたが、1年以上の時間を協議に要した。</li> <li>・ボランティアドライバーが有償で運送する仕組み。</li> <li>・平日は町内のみ、土日は市内中心部まで運行。平日は路線バスが運行しているため。</li> <li>・公共交通空白地有償運送（町民が対象）と福祉有償運行（町民で要支援、要介護認定者が対象）を実施。</li> <li>・料金は、世帯会員登録年会費1,000円、利用料は町内なら1回100円、市内指定場所まで（土日のみ）は距離制で800～1,000円。</li> <li>・予約は前日までに電話予約としているが、当日の連絡も多いのが実情。</li> </ul>

## 飯舘村第6次総合振興計画 中間報告会

### 住民からの意見等要約と事務局案

飯舘村第6次総合計画策定にむけ、計画策定の進捗を報告した。住民から出された意見等と、それに対応する事務局案の概要を以下に示す。なお、以下にはメールやFAX等にて受け付けたものを含む。

#### <開催概要>

日時：2020年2月19日 18:30～20:30

会場：交流センター ふれ愛館

参加者：20名



	意見・質問等	事務局案
キャッチフレーズ、目標設定、計画の基本方針等	<b>1. キャッチフレーズ、目標設定、計画の基本方針等について</b>	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. どんな村を目指したいのか、もっとはつきり示してほしい。例えば「人口1,500人でも安心して暮らせる村づくりをしよう」「5,000人の二地域居住を推進しよう」「新しい交流人口1万人をめざそう」「美しい村連合の認定基準を満たせるようにしよう」など。</li> <li>2. 何を言っているのか、何を指すのか、はつきり示されていない。キャッチフレーズの「ものは引き算」は、色々あっても我慢しようよと言われてるように感じる。私たちは新しい価値観をこの村に打ち立てていくということではないのか。</li> <li>3. 皆さんに説明しなくてもわかる言葉でないとキャッチフレーズにならないのではないか。</li> <li>4. メインテーマ、キャッチフレーズは基本理念が凝縮された言葉である。縮小せざるを得ない部分をとらえて引き算と前に出して、そのつりあいで足し算という言葉を使ったのか。引き算という言葉の否定的側面を考える必要がある。引き算という言葉は、様々な縮小があるが、我慢しろと言われてるように感じる。やれないことが当然だと受け止めさせる側面もある。地域にあったつつましい生活、心豊かな生活をしようというのは分かるが、引き算、足し算はどうか。</li> <li>5. 「ちょっと住む」ではなく「たまに来る」などとして、二地域居住OKだと村は全面的に推進することを示してはどうか。</li> <li>6. 最大の課題は原発事故による放射能汚染で破壊された村を希望と誇りをもって安心して住める村に蘇らせることだと考える。幾多の困難や悪条件を乗り越えるための計画なので、被災自治体としては厳しく国と向き合うことが求められ、行政と住民にもこれまで以上の積極性が求められるものと考え。「ものは引き算…」との表現は、課題や課題に向き合う姿勢に枠を嵌めることになり、取り組みの内向化、消極化に繋がりがねないと危惧する。このことから次のフレーズを提案する。「再生の光溢れる村をめざして」</li> <li>7. 難しい言葉や難しい表現、村民に馴染みのない言葉（例えば「ようつべ」など）は別の言葉に置きかえて欲しい。</li> <li>8. 「30年 二地域での村民の暮らし再建」のキャッチフレーズを提案する。長期的な村、村民の再建が必要であると考え。森林は放射能汚染されたままであり汚染は長期化し、若者は帰村しない。最低でも30年を見すえた村の再生計画を策定するべきである。30年は、若い世代、30代の世代が責任をもって取り組める期間である。計画策定の前提として、今後の年齢層別人口予測を明確に提示する必要がある。</li> </ol>	<p>■キャッチフレーズについて（関連意見1~8）</p> <p><b>ものは引き算、こころは足し算の村づくり</b></p> <p>～ちょっと住む 時々住む ずっと住む</p> <p style="text-align: right;"><b>みんないいかも いいたて村～</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●説明しなくてもわかる言葉のほうが良いという意見もあったが、策定委員会で同様の話題になった際に「までライフのようにわかりにくい言葉のほうが、説明というアイスブレイクを入れることができる」という意見があったことから、わかりやすい説明を加えた上で現在のキャッチフレーズを使用する。</li> <li>●否定的に聞こえるという意見やたまに来る人が含まれていないように感じる等の意見を踏まえ、誤解のないような説明を心がける。</li> <li>●キャッチフレーズだけでは計画の方針が伝わりにくいという趣旨の意見が多かったことから、キャッチフレーズの基となる、計画の基本理念を明記する。</li> <li>●目標等がわかりにくいという声も多く、こちらについてはアイスブレイクのような役割を持たせる必要が薄いことから、わかりやすい言葉選びを意識すると共に、健康分野、福祉分野、環境分野など、分野別に「将来の目指す姿」や「基本方針」を設定することで目標をわかりやすくする。</li> </ul>

意見・質問等	事務局案
<p>9. 人口1,400人で今後村を存続させていけるのかが焦点であり、この人口でやっていけることをまず計画で示すことが大事ではないか。</p> <p>10. 6次総は、5次総よりもっと人口が減ることを前提とし、それを全面的に打ち出す必要がある。</p> <p>11. 戻ってきた人たちが「戻ってきてよかったな」と思える村づくりが必要だ。戻ってきた人たちが意気揚々と暮らしていれば、私たちも戻ろうという人も増えるだろう。私は仮設で8年暮らし、飯舘村に戻った。戻った人たちが、自分の家だからいいけれども、こんなはずではなかった、期待したのはこんなではなかったと言っている。</p> <p>12. 被ばくのリスクがなくなれば、こんな素晴らしい村なので皆さん戻ると思う。今の最優先課題は村内に戻り居住することでの被ばくを如何に低減するかだと思う。汚染の実態調査、対策を進める計画作りが、帰村した村民たちがより安心して暮らせるための基本的条件だと考える。</p> <p>13. 課題をキチンとみていないと思う。優先順位をつけて課題を解決することをしていないから、中途半端。だから全部ダメ。年をとった人が多いなら、その人たちの生活を良くするのが最優先、病院、買い物、いこいの場。</p> <p>14. 「誰のために、誰が、いつまでに行うのか？」がイメージできませんでした。具体的に「村内に住む高齢者夫婦（70代）」「村内に住む子供がいる夫婦（30代）」「村外に住みながら、飯舘村にくる高齢者夫婦（70代）」など具体的にイメージしながら検討すれば、より具体的で身近な村民がイメージしやすい計画になると思う。すぐにでも行動できる具体的なスケジュールとなることを楽しみにしています。</p> <p>15. 村内の村民のための4部門計画+村外の村民のための4部門計画の計8部門制にすべきである。</p> <p>16. 計画の中に、明確に原発事故による放射能汚染の経緯と実態を述べ、その厳しい状況の中で、村及び村民の再建をどう進めるかという計画の本質を明確に述べる必要がある。また、帰還困難区域でかつ除染土壌の再利用が進められている苦渋の長泥地区の課題も明確に述べる必要がある。</p> <p>17. SDGs（持続可能な開発目標）を組み込んだ、誰もとり残さない計画づくり。SDGsは国際的な17の目標を掲げてあり、キャッチフレーズは「誰も取り残さない」未来の創造である。飯舘村は厳しい災害下ではあるが、「誰も取り残さない」、持続可能な村づくり計画を目指すべきである。</p> <p>18. 帰村した村民だけでなく、避難している村民も一緒に、また、若い世代から今まで飯舘村を引っ張ってきた高齢者世代、すべての世代が、「新しい飯舘村を作っていくんだー！」という気持ちがないと、このままでは飯舘村が終わってしまう。「飯舘村や飯舘村議会にだけ任せちゃいけない。自分たちも飯舘村の将来を考えないといけない。」という強い気持ちを持っていないと、ふるさと飯舘が廃れてしまう。</p> <p>19. 飯舘村の年齢別、帰村者・避難継続者・二地域居住者別、各層での村外及び村内での生活再建、コミュニティ再建のための計画を策定してほしい。</p>	<p>■目標設定について（関連意見9~12）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●村の財政状況等を計画に記載した上で、今後の見通しについても記載する。</li> <li>●村内居住人口については、第3回策定委員会で報告した人口推計のとおり、予測が困難であることから、事業を行う際には状況に応じて随時見直しを行う。</li> </ul> <p>■発信等（関連意見11）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●帰村を迷っている方や移住検討者等に向けて、村の現状や暮らしの支援情報、精力的に活動している帰村者の方々の声をよりわかりやすく発信することを計画に盛り込む。</li> </ul> <p>■原発関連（関連意見6.8.12.16）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の経過、除染関係や長泥行政区の復興再生拠点等については、関連する総合計画等として「いいたてまでいな復興計画」や「飯舘村特定復興再生拠点区域復興再生計画」について記載する際に触れるほか、健康分野や環境分野等での記載を検討する。</li> </ul> <p>■課題、スケジュール等（関連意見13.14.17.18.19）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●事業の優先順位や具体的な実施主体・目標・想定スケジュール等については現在検討途中。また、なるべく多くの方に村づくりに関わっていただけるような視点で案を作成する。</li> <li>●飯舘村ではSDGsに近い考え方の事業等を以前から実施しており、今回の計画においても、必要に応じてSDGsの基準等を参考にしながら策定を進めていく。</li> </ul>

	意見・質問等	事務局案
<b>2. 周知・報告等について</b>		
周知・報告等	<p>20. 報告会を村に戻った人や、2,000人が住んでいる福島市でも開催してはどうか。</p> <p>21. 計画策定に関するお知らせを全戸に配布し、皆さんの意見を伺う機会を設ける等、みんなで作った気持ちになれるような心配りをしてほしい。</p> <p>22. 届く書類の文字が小さいので、大きくして欲しい。また、読みやすい、わかりやすい工夫をして欲しい。</p> <p>23. 中間報告会等の様子を録画放映してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和2年度に福島市内で報告会等を行う予定。(関連意見 20)</li> <li>●令和2年度に計画案の概要等を広報に同封して全戸に配布し、それについての意見を受け付ける等の取組を行う予定。(関連意見 21)</li> <li>●資料作成について、文字の大きさ等、読み易さに配慮する。(関連意見 22)</li> <li>●これまでの中間報告会等では個人名等のプライベートな部分に関わる発言が少なくないことから、今後も録画放映等は行わず、議事要約等の公開としたい。(関連意見 23)</li> </ul>
<b>3. 具体的な取組みについて</b>		
視点	<p>24. 健康分野に高齢者に役割づくりが必要とある。若い世代も役割は必要だ。どういう取り組みをしていくのか、関わりやすい目標をつくるのもいいかもしれない。</p> <p>25. 役場職員だけでは、できることが限られるので、もっと多くの方が村づくりに関われる仕組みが必要だと思う。村民の求めているものを、役場職員ができなくても、他の誰か・学校・団体・企業ができるのではないか。または、組織を作ってもよい。単に業務を委託する下請け的な関係ではなく、企画・運営・資金繰りなど、最初から一緒に考えるパートナーとして、考え、接してほしい。ないものはみんなで作り上げる、そう考えると、可能性は無限にあると思う。</p> <p>26. 村外からの人が見て村に参入したいと思える視点がどこかに盛り込まれていくことで人口、農業継承、教育等の問題解決に繋げていける計画となることを望む。</p> <p>27. 最近村民の話をあまり聞いて貰えないように感じる。確かにいろいろな方の話を聞くことは大事だと思うが、村民の中に諦めムードが漂っているような感じがする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●若い世代が村づくりに関わりやすい仕組み作りや、村づくりについての若い世代の役割を意識して計画を策定する。(関連意見 24)</li> <li>●村民がより村づくりに関われる仕組み作りを意識して計画を策定する(関連意見 25.27)</li> <li>●村外居住者や移住検討者が村づくりに関わりやすい・興味を持ちやすいような視点を意識して計画を策定する。(関連意見 26)</li> </ul>

健康・福祉・環境	<p>28. 多くの村民が避難している福島市や南相馬市にも、飯舘村民交流センター的な場所があれば、うれしい。村民の人とお話したい。</p> <p>29. いいたてクリニックは週2日の半日のみ開院、スーパーもドラッグストアもホームセンターもない、何か用事があるたびに村外にでなければならなければならないととても不便である。</p> <p>30. 外に暮らす若い人たちの生活再建、コミュニティ交流再建の機会増加と村外での場所づくりを促進する。また、村外でまだ不安定な自主避難をしている村民達のための村外での定住策、復興公営住宅等を村外に建設することも必要となる。</p> <p>31. 「放射能被曝に対する長期的健康診断と治療の補償（国に対して）」、「放射能汚染の実態解明、低減予測等」、「生産物の放射能の継続的検査と結果の周知」、「農林地管理作業員の健康管理の徹底化」、「継続的な放射能学習」、「高齢化、独居高齢者への福祉対策、村外での交流・癒し拠点づくり」、「村外での村民の集いと憩いの場づくり」。</p> <p>32. いいたてホームのニーズ、入所希望者の増加（さらに今後増加が予想される）のもとで、スタッフの労働条件の大幅改善により、人手不足を改善し、出来る限り、入所者を受け入れるべき。「累積赤字の当面の改善」より、当面の「赤字」は不可避の支出と考えて、村民のニーズに対応することがまず優先。コストパフォーマンスを考えても、今後の長期の持続可能性を考えれば、経営を拡大する方向を模索すべき。</p> <p>33. 村の自前のデイサービスを一刻も早く整備すべき。</p> <p>34. 訪問介護（ヘルパー）・訪問看護・訪問リハビリの事業所も村内に一つもなく、村外から訪問してくれるケースも例外的。村の直営が無理なら、民間で訪問サービスを立ち上げる試みがあるなら村は十分なバックアップをして、立ち上げられ、持続出来るよう支えるべき。</p> <p>35. 訪問診療をする医師が村内に1人確保できたら、村民の安心感はどれほど違うか。現在のクリニックに開業医を一人招いて、週五日の受診と随時往診が出来る医師を探し招こうという意向は、村にはないのか。</p> <p>36. いいたてホーム等の求人について、お知らせ版に載っている募集を見ると、あの賃金・労働条件では、飯舘村であろうが、都内の一等地であろうが、誰も応募しない、としか思えない劣悪さ。全国の相場の何割か高い賃金を掲げて新人を雇用すべき。</p> <p>37. 「若者むけ」「子供むけ」の浪費をやめるべき。むしろ、高齢者が、他の村にはないような楽しさのある生活、医療福祉などで十分に顧慮された生活を送っている現実を実現していくことこそ、若者をふくめた多くの人に「飯舘村に生きる人の希望」を見せることになるし、その希望を支え、シェアする生活を願って、村に帰る、村に移住する人が生まれ、仕事（雇用）が創出できる可能性も生まれる。</p>	<p>●健康・福祉・環境部会にて共有・検討する。（関連意見 28~37）</p>
----------	--	--

	意見・質問等	事務局案
産業・観光・移住	<p>38. ひまわり畑がきれいだから、写真スポットを作って、多くの人に来てもらう。そうすれば、道の駅にも人が来ると思う。</p> <p>39. 道の駅に、おしゃれなカフェを作ってほしい</p> <p>40. 粉ひきなどの加工機がある、みんなが集まれる加工所があると良い。村内で暮らす楽しみの一つになる。</p> <p>41. 白石のローソンがなくなってとても不便になった。生活に必要なお店が広い飯舘村に点在しないと生活がとても不便だ。道の駅以外の、生活に絶対必要なお店にも支援してほしい。</p> <p>42. 村に住んでいても、お金を使う場所は村外ばかりで、村の中にお金は落ちない。例えば、コストコのような大規模小売店を飯舘に誘致するなど、思い切ったトップセールスをしていただけないだろうか。コストコのために、福島県内からも車を1時間以上走らせて買い物に行く人もたくさんいる。会員制なので繰り返しその店舗に訪来しているようだ。飯舘にそういった大規模店が来れば、帰村する人や移住する人も増えるし、自然と交流人口も増えるのではないだろうか。大規模店が進出することイコール「までいライフ」の否定ではない。何か用事があるたびに村外に車であくせく移動しなければならない生活は、“までい”とは逆行しているように思う。村の中で“までい”に暮らすためにも、村内の生活環境を整えていただければと思う。</p> <p>43. ローソンがなくなって困ったこと。トイレが使えなくなったこと。のどが渴いたとき水が買えなくなったこと。お昼のおにぎりを買えなくなったこと。飯舘村が、不便になった。</p> <p>44. 「汚染されていない黒土等の提供」、「除染農地でのエネルギー作物振興とバイオエネルギー生産」、「長期的森林再生の試験プロジェクト実施（防災的機能も含めて）」、「村内の放射能汚染実態の情報発信に基づく移住者の適切な受け入れ」、「村外での商工業、農林業振興支援、村外での飯舘村館等の整備」、「村内外での放射能災害の学びのツーリズム育成」。</p> <p>45. 県外に住んでいるが、狩猟免許を取得し、飯舘村の有害鳥獣駆除に協力したい。このような場合でも資格試験の申請をしやすい仕組み作りや、猟友会等と連絡しやすい仕組み作りをしてほしい。</p> <p>46. 生鮮食料品を売るスーパーやホームセンターの開店は、村民の悲願。「赤字が出るにきまっている」と手をこまねいていて、まともに生活ができる村になるはずがない。避難～帰村という状況で、最初から黒字になる大型・中型販売店があるはずがないので、「採算があうから」ではなく「村民生活に必要なだから」スーパーやホームセンターを村の責任で開店すべき。</p>	<p>●産業・観光・移住部会にて共有・検討する。(関連意見 38~46)</p>



	意見・質問等	事務局案
教育・文化	<p>47. 村から離れて住んでいる子供たちへ、毎年、暑中見舞いを送ってはどうか。内容は、「お元気ですか。飯舘村は涼しいですよ。お墓参りを兼ねて、飯舘村へ来てみませんか。」など。飯舘村にちょっとでも関心を継続的に持っていただくこと。とても大事だと思う。</p> <p>48. 飯舘に戻って、3年近くになりますが 毎年今年は何人ぐらい入るのかなあと話題になる。飯舘に限らず過疎地域はありますが、このまま学校がなくなってしまうのかなあと考えると寂しい。</p> <p>49. 「低年齢層の村内就園・就学の再検討」、「就園・就学児童の被曝実態の継続的把握と放射能防御教育」、「急遽解体された飯舘村内の貴重な建物及び農具・生活具・文化財の記録化」、「村外に就園・就学する児童への支援」、「村外での待機児童解消への支援（村外自治体との共同経営等の検討）」、「村での飯舘文化伝承の拠点と人材育成（村民以外も含めて）」、「地区ごとの伝承文化の継承と第5次総合計画で描いた地区別計画、地区のつながり計画においてソフト事業で対応できることの実施」</p> <p>50. 「子供のために、よいこと、よい教育をしてあげる」ことばかり語られている飯舘村の学校教育は、はたして、「子供のためになっている」のか。厳しい状況、環境にある村だから、自分で課題を見つけ考え模索する、逞しい子供たちを育ててほしい。</p> <p>51. 生きにくい社会の苦勞を負って生きている家庭の子供たちに、学校に通う機会を飯舘村で提供できれば、それは、その移入した子供にとっても、迎える村民の子供にとっても、よい挑戦の機会をもたらすと思う。</p>	<p>●教育・文化部会にて共有・検討する。（関連意見 47~51）</p>

<p>防災・建設・行財政</p>	<p>52. 地域で何かやろうとしてもまとまらない。難しい。</p> <p>53. 村内で生活が完結するような環境整備をしてほしいです。</p> <p>54. 防災・建設・行財政部会の「地域同士で助け合おう！」で計画している「地区別計画」について、5年間かけて地区別計画を作る想定だが、行政区の課題等については、今検討し、解決に向けてすぐに進まなければならないと思う。5次総や復興計画を基に最低限の計画を作り、すぐにスタートすることで5年早く取りかかることができる。高齢者が多いので5年も待てない。</p> <p>55. 飯舘村村議会の様子を録画放映してほしい。平日の日中なので、仕事中は見ることができない。過去の議事録は、単にPDFで公開するのではなく、他の自治体のように検索システムをいれてほしい。飯舘村の復興を行うために、飯舘村議会の様子を村民に伝えることは最低限必要なこと。</p> <p>56. 役場に行くと、なんか怖い。誰のところに来たのかと見られている気がする。役場入ってすぐのところに、案内する人がいるといいと思う。その方に、用件を話すと、担当者まで一緒に案内していただける。そんな、やさしい役場がいい。</p> <p>57. 総合計画を実施する上で、制度的改革を国に要求する。長期復興地域であり長期汚染地域としての生活に関する法制度的整備と生活リスクに伴う補償。飯舘村民としての権利を長期的に補償する「二重住民票」の法制度の制定。長期的な汚染地域である森林（国有林及び民有林）の徹底管理。多くの国有林が森林上部にあり、そこからの汚染物質の流出・流下対策も含めて。</p> <p>58. 「山火事や台風による集中豪雨対策（洪水、土砂崩れ、放射能流失対策等）」、「継続汚染の続く、森林地域の入山規制の制度化」、「洪水、土砂崩れ等での再汚染に対する宅地・農地の再除染の要請」、「除染土壌の再利用実証農地のある長泥地区の農地保全対策及び放射性物質管理の継続（国・県の責任の明確化と徹底協議）」、「放射能汚染実態に関する継続的学習会等の実施」、「復興事業で建設した多種の公共施設の維持管理の監査と将来的管理費用予測と対策」、「村外に移住した村民達のコミュニティをまとめるための施設整備」、「村外の村民の生活再建のための行政サービスと財政支援策」、「二地域居住者の移動支援（村外行政との連携）」</p>	<p>●防災・建設・行財政部会にて共有・検討する。（関連意見 52～58）</p>
<p>その他</p>	<p>59. 飯舘村は震災の時にオーストラリアから沢山支援して頂いたにも関わらず、今回の山火事の際、全く支援をしなかった。失望した。</p> <p>60. 飯舘村に戻って、それなりに、暮らすしかない。なんともしょうがない。元気であるしかない。</p> <p>61. 人の幸せは、人それぞれ。不便なところから解消する。</p> <p>62. ブロンズ像に数千万円使っていると雑誌等で読んだ。何か勘違いしている気がする。お金があるから、何でもやっていいわけではない。もう買ってしまったと聞いて、とても残念。飯舘村は誤った方向に向かっていると思う。帰村しても、元の生活に戻ったわけではなく、不便なことがたくさんあると聞く。もう、バカなことはやめてほしい。</p>	

## 村づくりの基本理念（案）

### ものは引き算、こころは足し算の村づくり

～ちょっと住む 時々住む ずっと住む みんないいかも いいたて村～

第5次総合振興計画で掲げた「までいライフ」という理念を踏まえながら、東日本大震災で得た教訓も併せて村づくりを進めていくことが、飯舘村の使命であると考えています。

私達は震災を経験して、ものやお金だけでは手に入らない当たり前の日々の暮らしがいかにかに幸せであることか、気付かされました。

むしろ、ものに溢れた便利すぎる暮らしが人と人との結びつきを弱め、お互い様の気持ちで支え合う優しさを忘れることさえありました。

田舎の毎日の生活を楽しむためには、ものはそこそこにし、わかち合う心を持って共助していけば、大きな力の源になっていくことでしょう。ものの豊かさだけでなく、力を合わせることを大切に……この考えから、「ものは引き算、こころは足し算の村づくり」のフレーズになった次第です。

また、「ちょっと住む 時々住む ずっと住む みんないいかも いいたて村」についてですが、飯舘村には、村で暮らす方以外に、村外で暮らしている方やふるさと住民など様々なスタイルの暮らし方があります。私達は、飯舘村を、より多様な住み方ができる村にしたいものです。それに、震災を機に多くの飯舘村ファンが生まれました。

村に住みたくても住めない方や、たまに村に通う方、全国から村を応援していただける方を含め、みんなで協力して多様性を認め合う村をつくってほしいとの考えから、このフレーズが生まれました。

これらの考え方を第6次総合振興計画の基本理念とし、2つのフレーズを新しい村づくりのテーマとして掲げ、次の世代に繋げていきたいと考えております。

## 施策の大綱（案）

村づくりの基本理念を踏まえ、施策の大綱を次のとおり設定します。この大綱は、基本理念に沿った計画作りの骨組みとなるものであり、基本計画の各分野における基本方針を示すものです。（下記は事務局が作成した仮の文章です）

### 1. 心身・生活・風景が美しく健やかな村 （健康・福祉・環境）

豊かな自然の中で、誰でも安心して長く活躍できる村を目指します。

### 2. 身近な魅力に気付き、価値を磨き上げ、楽しい日々を作り上げる村 （産業・観光・移住）

既にある地域資源やネットワークを武器に、活力溢れる村を目指します。

### 3. 子どもも大人も粘り強さと豊かな個性が育まれる村 （教育・文化）

地域の歴史や誇りを見つめ直し、強く優しい人づくりができる村を目指します。

### 4. 「頼りきり」から「支え合い」に踏み出す村 （防災・建設・行財政）

自分達の生活は自分達で守るという意識が共有される村を目指します。

専門部会の協議状況の報告（重点事業）

部会	現状	めざす姿	基本方針	重点事業（検討中）
健康・福祉・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災後、交流の場が少なくなったことで、日常の助け合いや意思疎通が難しくなっている</li> <li>・震災前から生活習慣病などが多く、震災後はストレスも加わって健康管理が難しい状況にある</li> <li>・震災後、家族と離れて孤独な子育てが増えている</li> <li>・医療が不足している</li> <li>・食事の栄養の偏りや交流の場の減少が続いている</li> </ul>	<p>＜健康＞  <b>食べて笑って楽しく健康づくり</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代、村内外を含めた住民同士の多様な交流を通じた健康づくり</li> <li>・心も含めた健康寿命を向上させるきめ細やかな健康管理</li> <li>・子育て支援のしくみづくり</li> <li>・安心して人生を全うできる村</li> <li>・健康的な食事を地域に出向いて郷土食などを提供する仕組み作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>豆ふたたびプロジェクト</b> 5次総でも挙げていた「豆」を活用し、楽しく健康になれるイベントで交流を促す</li> <li>●<b>健康診断まつりの実施</b> 健康診断を受診しやすい体制をつくり、健康寿命の向上等に取り組む</li> <li>●<b>妊産婦、乳幼児の健康維持の推進</b> 子育て世代包括支援センターによる妊産婦、乳幼児の健康維持の推進</li> <li>●<b>医療の推進</b> 在宅生活を支援する医療と介護の連携を図る</li> <li>●<b>移動食堂プロジェクト</b> 昼はコミュニティ食堂、夜は男性向けのサロンのような場を日替わりで移動できるキッチンカーで行い、健康的な食事を提供。災害時にも役立つ</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者だけの世帯では買い物や除雪が難しい</li> <li>・元気で様々な貴重な経験や知恵を持っている高齢者の活躍の場が少ない</li> <li>・村外の在宅福祉サービスを利用している</li> <li>・子育て支援センターが無い</li> <li>・専門職員等の人員が不足しているため、介護サービスを限定されてしまう</li> </ul>	<p>＜福祉＞  <b>「出番」を作る仕掛けづくり</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やれる人がやれる時にやれることを支え合う仕組みづくり</li> <li>・年齢や状況に合わせた生きがいづくり、役割づくり</li> <li>・安心して暮らせる村づくり</li> <li>・子育て支援の強化、維持</li> <li>・様々な工夫による福祉の人材確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>村民同士の支え合い推進（福祉編）</b> 見守り、買い物支援、除雪などを住民同士で支え合える仕組みを整備する</li> <li>●<b>いいたて動画プロジェクト</b> 村民1人ひとりの得意を動画で発信し技術継承や生きがいづくりとする</li> <li>●<b>在宅福祉の充実</b> 住み慣れた家で暮らせるよう、人材を確保し、在宅福祉サービス充実を図る</li> <li>●<b>子育て支援センターの整備</b> 村内に子育てセンターを整備し、親同士の交流や地域交流の場とする</li> <li>●<b>人材の確保</b> いいたてホーム等の介護等の人材確保を推進する</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者だけの世帯では草刈りやゴミ出しが難しい</li> <li>・震災前は生ゴミを土に還したりしていたが、震災後は進めにくい状況</li> <li>・不法投棄が現在も行われている</li> <li>・地球規模で環境問題へ対応が求められている</li> <li>・耕作放棄地等、村全体の景観が悪化している</li> </ul>	<p>＜環境＞  <b>ゆったりした環境づくり</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草刈りや除雪などを住民同士で助け合える仕組みづくり</li> <li>・村全体のゴミ排出量を削減</li> <li>・100年後も美しい村であり続けるための環境づくり</li> <li>・環境負荷の軽減に向けた省エネの推進</li> <li>・景観の維持及び改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>村民同士の支え合い推進（環境編）</b> 草刈り、ゴミ出しなどを住民同士で支え合える仕組みを整備する</li> <li>●<b>家庭ごみ減量</b> 震災前までの分別やリサイクルを基本にごみの出し方を見直し、ごみの減量をする</li> <li>●<b>不法投棄対策強化</b> 周知や監視体制を強化し、対策を進める</li> <li>●<b>節電推進</b> 公共施設のLED照明の導入など、村全体で節電を推進する</li> <li>●<b>住民による花と緑の村づくりの促進</b> 村で特定の花を決め、それを道路沿い等に集中して植えることで景観を改善する</li> </ul>

部会	現況	各分野のめざす姿	各分野の基本方針	重点事業（検討中）
産業・観光・移住	<ul style="list-style-type: none"> <li>再開するための農地や人手が不足しており、再開へ向けた基盤整備や担い手の育成が課題である。</li> <li>費用の問題で産業の再開が踏み切れない方がおり、初期投資への支援が課題である。</li> <li>居住地や働き方が変化しており、村の産業へ関わり方についての対応が課題である。</li> <li>新規参入や事業の拡大が難しい理由として、事業収入の低さや事業の見通しへの不安があげられており、それらを解消していくことが課題である。</li> <li>事業者同士の交流が少なく、拡大へ向けてどのように共有していくかが課題である</li> </ul>	<p>＜産業＞ 自分らしく活躍するいきいきした産業活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基盤整備と担い手を育て、生産力の増大・向上を図る。</li> <li>事業者の負担軽減を図り、なりわいを後押しする。</li> <li>誰もが様々な形で村の産業に関われる環境を整える。</li> <li>戦略的な見通しを立て、ブランドの拡大を図る。</li> <li>情報やノウハウを共有し、稼げる産業へ発展させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●産業基盤の整備 継続して農業基盤の整備を進める他、農地中間管理機構を活用し、農地集積や耕作放棄地解消、未利用のハウス活用を促進する。</li> <li>●創業・再開への支援 創業や事業再開を希望する事業者へ初期コストに関する支援を行い、創業や再開を促進する。また、コンサルティング導入支援を行い、経営や事業の拡大を図る。</li> <li>●生きがい農業からのステップアップ 生きがい農業を実施していた方が経済活動に関われるように支援を行う。</li> <li>●までいブランドの拡大 ニーズ調査や市場開拓、飯舘牛の復活等のブランド力強化やブランド拡大を図る。</li> <li>●分野別部会の設立 畜産や花卉などの部会を立ち上げ、市場動向や技術等に関する情報交換を行う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>星や虫、四季など魅力を集約・発信出来ていない。</li> <li>特産品などが少ない中、村のために活躍を希望する方を活かした魅力づくりが求められている。</li> <li>村ならではのコトを体感出来る機会が少ないため、資源を活用した機会づくりが課題である。</li> <li>あいの沢やスポーツ施設などこれまでに整備された資源が観光客の誘致に有効活用されていない。</li> <li>村の活力を維持するための関係人口を増やすには、どのような仕掛けを作るかが課題で必要である。</li> </ul>	<p>＜観光＞ 懐かしいもの新しいものが融合する体験観光</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飯舘の発信の場を増やす。</li> <li>村の魅力づくりに取り組む人を応援する</li> <li>整備された資源に付加価値をつけて再スタートする</li> <li>資源を活用した滞在型観光を促進する</li> <li>村内外の人と一緒に魅力を創りプロモーションする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観光情報発信場所の整備 道の駅に観光情報を発信・案内できる場と機能を整備する。</li> <li>●チャレンジマルシェの場と機会の創出 きこり等に個人が作った加工品や農産物、工芸品などを販売できる場を設置する。</li> <li>●マラソンコースの復活（サイクリング・ウォーキングコースの併設） コースの再整備。さらにサイクリングやウォーキングコースとしても活用する。</li> <li>●あいの沢の再構築 キャンプ場の早期再開のための整備、きこりの魅力向上につながるマネジメント。</li> <li>●飯舘八景づくり 美しい村の風景を写真コンテスト等を通して「八景」として整理・PRする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>村を十分にアピール出来ていない。インターネットを活用し発信していくことが求められている。</li> <li>「交流の場づくりに取り組みたい」と希望する声が多いが場がない。仕組みを整えることが課題である。</li> <li>村と関わり合う機会や仕組みが少ないため、きっかけがあっても関係の継続性がない。</li> <li>空き家の不足、需要との乖離が問題となっており、移住希望者を受け入れる場の確保が課題である。</li> <li>コミュニティが限られ相談する相手が少ない等の問題があり、定住へ向けた対策が必要である。</li> </ul>	<p>＜移住＞ もてなしたくなる交ざりたくなる関わり合い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無関心人口へアプローチする</li> <li>チャレンジしたい人が交流の機会を創出する</li> <li>村の資源を通して関わり続ける仕組みをつくる</li> <li>空き家を活用し、移住者の受け入れを促進する</li> <li>地域の人や移住者も気軽に集まりやすい機会をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報発信 人・モノ・コトをデータベース化した上で新しい価値を加え、インターネットを活用し発信。村の情報について気軽に教える教わる事が出来るQ&amp;Aチャットを創設。</li> <li>●チャレンジカフェ等が出来る既存施設の活用制度 きこりや道の駅等を活用し、やりたい人が自分のペースでカフェや食事などを提供できる制度開設。</li> <li>●体験を通じた関わり合いの体型づくり 観光や帰村の際に田植え・稲刈りなど都会ではできない体験を足し算する仕組み。</li> <li>●空き家活用の活性化 空き家バンク支援員の導入、空き家の学生の教材使用等を進め、活用を促進。</li> <li>●気軽に話し合える機会の創出 村民も移住者も気軽に集まって話が出来る機会を定期的に設ける。</li> </ul>

部会	現状	各分野のめざす姿	各分野の基本方針	重点事業（検討中）
<b>教育・文化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村の歴史や文化、自然を知らない子どもが増えている。</li> <li>・座学だけではなく様々な体験学習を行いたい。</li> <li>・義務教育学校の開校により9年間を通した個性を生かした教育が可能である。</li> <li>・運動不足の子どもが増えている。学校と家庭が連携しながら積極的に体を動かす機会をつくり健やかな成長を促す必要がある。</li> <li>・慣れ親しんだ環境と離れ、不登校となる子どもが増えている。生きる力を育みながら、安心できる居場所を提供することが必要である。</li> </ul>	<p>＜学校教育＞ 竹のようにしなやかに、石のようにどっしりと、みずからに誇りをもつ教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと教育の推進</li> <li>・体験学習の充実</li> <li>・少人数ならではの個々の特性に合わせた教育</li> <li>・健康や運動能力の重視</li> <li>・不登校等への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ふるさとの文化を習得する授業 学校でぬかどこを作り、何年も受け継いでいくなど、連続性を持つ授業の実施。</li> <li>●学習・体験機会の充実 郷土文化を学ぶ修学旅行・海外研修や、里山でのクロスカントリー競走等感動体験学習。</li> <li>●個性を育む教育 長期間及び少人数だからこそできる一人一人の特性を踏まえた指導を行う。</li> <li>●健やかな子どもを育む 肥満や虫歯等子の健康課題に即した指導を行うほか、スポーツを奨励する。</li> <li>●不登校児等のいたて留学 学校等の悩みを抱える子どもや親子を飯舘村で短期的に受け入れて心身を癒し、飯舘をもう一つのふるさとにして貰う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の機会が減少している。</li> <li>・自然と触れ合う機会が減少している。</li> <li>・大人同士の交流の機会が減少したほか、村の活動から離れざるを得ないケースもある。それぞれが出来る形で、ふるさと関わる必要がある。</li> <li>・村内の子どもだけではスポ少等の活動を維持することが困難である一方、村外からも利用要望が増えている。スポーツを一つのきっかけとし、村内外の交流を促進することが必要である。</li> <li>・村外から移住する人が増えているため、以前からの住民との交流を促進し、村の文化や暮らしについて共に学ぶことが必要である。</li> </ul>	<p>＜社会教育＞ ふるさとをみつめ、ふるさとに学び、ふるさとと歩む教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の推進</li> <li>・大人も、もう一度村と関わりを深め、誇りを持てるようにする</li> <li>・子どもと大人、村民が学びあえる関係、仕組みづくり</li> <li>・スポーツの推進</li> <li>・社会教育を通じた交流促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「いい本、たまには、てにする」運動 読書による学びを奨励する</li> <li>●自然に学ぶ 飯舘の自然を活かしたプログラムを提供し、親を中心とした地域の大人の交流を促す。</li> <li>●ライフステージに応じた学び 人生のライフステージごとの課題に応じ、生涯学習プログラムを企画、実行する</li> <li>●スポーツと交流の奨励 スポーツ公園を拠点として、地域住民や村外の子もたちとの交流を促進する。</li> <li>●ふるさと伝え手育成（社会教育） 紙芝居を作成し演者を育成する。テーマは「いのちのおにぎり」等「現代の飯舘」の人間の物語とする。作成や練習を通し、震災体験や郷土の誇りを見つめなおし、村民や元村民の交流のきっかけとする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯舘の伝説や伝承を整理し発信すれば村の魅力になる</li> <li>・震災後の避難等により家族や共同体の形態が変化し、これまで当たり前とされていた飯舘特有の食文化が継承され難しくなっている</li> <li>・地域で受け継がれてきた伝統芸能が後継者不足となっている。</li> <li>・村外で暮らしていても村と関わった時間を可視化したい。</li> <li>・お年寄りが繋いできた地域の伝説や物語が継承され難しくなっている。</li> </ul>	<p>＜文化・文化財＞ いいたてを語り、いいたてを喰（は）み、いいたてとすぞす文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝説や伝承等の調査、発信</li> <li>・食文化を見直し、新たな価値の創造</li> <li>・現代の暮らしの有形無形の文化をつなぐ</li> <li>・居住の場所を問わず、村と何らかの関わりを持ち、それを可視化できる仕組みづくり</li> <li>・文化を通じた交流促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いいたて物語エリア 飯舘に伝わる伝説、伝承を再調査し、地図を作成する。</li> <li>●食文化の保存、継承、活用 保存食や農産物等名物を見つめなおし、新たな名物をつくる。また、学校給食を高齢者や村内の大人にも提供できる仕組みを検討する。</li> <li>●いいたてようつべ（ようつべとは動画配信サイト「Youtube」のこと。） 伝統芸能の教習ビデオを作成する等、動画やSNSを活用して保存、継承を図る。</li> <li>●いいたて時間プロジェクト 村の事業等に参加し、飯舘で過ごした、飯舘の人たちと交流した時間を積み立て通帳で確認できるようにする。通帳作成は居住地の村内外を問わない。</li> <li>●ふるさと伝え手育成（文化） 紙芝居を作成し演者を育成する。テーマは飯舘に伝わる物語や伝承とする。</li> </ul>

部会	現状	各分野のめざす姿	各分野の基本方針	重点事業（検討中）
<b>防災・建設・行財政</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災計画の策定やハザードマップの作成が求められている。</li> <li>・行政区単位での防災組織維持がむずかしくなっており、防災体制の再構築が課題である。</li> <li>・防災訓練による安全・安心の確保が必要。</li> <li>・携帯電話不通地域等、緊急時連絡体制が不安。</li> <li>・大規模災害への備えが必要である。</li> </ul>	<p><b>&lt;防災&gt;</b>  <b>強靱ないたてをつくります</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域全体での協議体制構築</li> <li>・消防体制の強化</li> <li>・防災への意識付けや防災活動の強化</li> <li>・災害時情報伝達手段の整備</li> <li>・大規模災害対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>地域の避難計画・ハザードマップ作成</b> 行政区ごと又は複数行政区で話し合い、避難計画やハザードマップを作成する。</li> <li>●<b>消防体制の見直し</b> 消防団の分団・部の統廃合等を検討する。</li> <li>●<b>防災訓練の実施</b> 村全体や地区ごとの消防訓練・避難訓練を実施する。</li> <li>●<b>情報伝達手段の整備</b> 防災無線等の情報伝達手段を整備する。平常時も防災以外の村民全体への呼びかけや、役場からの重要な広報など、日常的に使用する。</li> <li>●<b>災害用備蓄の確保</b> 災害に備えて備蓄を確保する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化により、免許を返納した高齢者などが増加するとともに、観光客の足の確保も必要とされており、移動の利便性向上が課題となっている。</li> <li>・村外に居住している人が多く、村内の家屋や土地の維持管理が困難であるため、管理・活用方法などについての検討を行う必要がある。</li> <li>・村道の管理を引き続き実施する必要がある。</li> <li>・河川・道路の安全性などへの不安があげられており、河川改修や道路整備などによる安全で安心して暮らせる環境整備が求められている。</li> <li>・人が減り、暗く危ない場所が増えた。</li> </ul>	<p><b>&lt;建設&gt;</b>  <b>助け合いで暮らしやすいいたてをつくります</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行きたいところに気がねなく行ける仕組みづくり</li> <li>・村内の空き地の有効利用</li> <li>・村道の整備</li> <li>・道路の補修、河川の改修</li> <li>・夜道等の安全確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>移動手段確保</b> 住民による自家用車等を用いたデマンドタクシー等と村営バスなどの公共交通が連携した移動の仕組み構築を目指し、まずモデル地区での試験的な運行に取り組む。</li> <li>●<b>空き宅地の利活用検討</b> 空き宅地の利用方法を考える会の設立等を検討する。</li> <li>●<b>村道の適切な管理</b> 古い村道の維持・補修を順次実施する。道路側溝の清掃等を住民主体で実施する。</li> <li>●<b>河川・国道・県道についての関係機関との協議の推進</b> 国・県管理の河川や道路については関係機関へ改修等の要望を行う。</li> <li>●<b>街路灯・防犯灯の整備</b> 街灯が必要な場所を調査し、整備する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状を踏まえた新たな地域コミュニティのあり方を模索していく必要がある。</li> <li>・厳しい財政状況の中、効率的な行財政の執行が課題である。</li> <li>・公共施設などの生活利便機能の利用しやすさなど、利便性の確保が求められている。</li> <li>・節約だけでなく村として収入を確保する必要がある。</li> <li>・今後、村民参加により着実に総合振興計画を実現していくためには、進捗状況の確認及び評価に村民が関与できる仕組みを構築する必要がある。</li> </ul>	<p><b>&lt;行財政&gt;</b>  <b>連携で課題に立ち向かえるいたてをつくります</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区別の将来像を話し合う場づくり</li> <li>・行政に頼りすぎない暮らし方の実現</li> <li>・公共機能の集積による暮らしの利便性向上</li> <li>・ふるさと納税制度のより効果的な活用</li> <li>・6次総の進捗を適宜確認する仕組みづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>行政区の地区別計画の策定と連携強化</b> 5年間で行政区ごと又は複数行政区合同で地区別計画を策定する。</li> <li>●<b>公助から共助・自助への段階的移行</b> 村民、企業、行政の役割分担を明確にして、村民本位の村づくりを進める。</li> <li>●<b>役場簡易機能・簡易郵便局機能の復興拠点への整備</b> 住民票等をコンビニ交付可能にし、買い物・役場手続きを一回の移動で済むようにする。</li> <li>●<b>ふるさと納税の充実</b> ふるさと納税の促進及び寄付金利用方法を検討するための会議を設置する。</li> <li>●<b>村民参加による計画進捗管理</b> 第6次総合振興計画の各専門部会委員による計画推進チェック組織を整備する。</li> </ul>

## 計画書ページイメージ

**【防災部会】手作りハザードマップをつくろう！**  
 家族や地域で危ない場所を共有して伝えるために、手作りのハザードマップをつくります。

ここに蓋のない側溝があって危ないと思ったわ。

昔からの言い伝えでは、この辺りが危ないらしい。

避難所までに水路が2つあるわ。

洪水の時にはここが危険なんだ！

ここは一人で出歩けないおばあちゃんがいるから、一緒に避難しよう。

この水路はよく水が上がる。

皆さんの意見を地図にまとめて、全戸に配布します

**みんなで取り組んでみませんか？**

- ・ 浸水した様子を思い描きながら、地域を改めて歩いてみる
- ・ 避難所までの道を確認して、実際に歩いてみる
- ・ 強風などで飛ばされそうなものがないか、家の屋外を点検・整備する
- ・ 災害があったときの避難場所や連絡の取り方を家族と話し合っておく
- ・ 地域で災害や避難について話し合い情報を共有する
- ・ お年寄りなど支援が必要な方のできることを考え、避難の際に協力する

## 部門間で重複するプロジェクト

	防災建設行財政	健康福祉環境	教育文化	産業観光移住
プロジェクト 共通 1 <b>食</b>		郷土食・学校給食の活用		観光への発展 ・食を通じた集いの楽しみ
		【食の開発・健康づくりへの応用】 ・豆ふたたびプロジェクト ・キッチンカー（食文化サークル）	【食による教育】 ・子どもへ郷土食の実践教育 ・郷土食を発信（しみ鍋）	
プロジェクト 共通 2 <b>動画発信</b>		動画いいたてチャンネルで発信		
		【いきがい編】 ・村民の（個人）史を発信（1村民1動画） ・郷土食なども発信	【文化・伝統編】 ・文化・芸能の教習・保存	【移住・観光編】 ・情報発信
プロジェクト 共通 3 <b>移動</b>	地域の移動を確保			
	【地域全体の交通網を検討】 ・地域で移動を考える（デマンド、助け合い交通）	【福祉輸送として活用】	【スクールバスとして活用】	【観光の足として活用】
追加 共通 4 <b>森林再生</b>	環境分野 or 産業分野			